

學習指導案形式例（外国語活動・外国語科）

外国語活動／外国語科の指導案は、以下の項目について他教科と異なります。
主要教科の学習同案例と合わせて活用してください。

2 (4) 校内研究との関わりから

校内研究テーマ 『 』

①

②

③ 全国学力・学習状況調査の結果分析と研究テーマとの関わりから

令和6年度の結果と分析を踏まえて、本単元でどのような取組ができるのかを記述しましょう。なお、必ずしも校内研究テーマと結果分析が関連するとは限りませんので、その場合は、全国学力・学習状況調査の結果分析については、「指導観」に記述するとよいです。

〈参考〉

※令和5年度実施の学調にて、特に以下の課題が挙げられました。それを踏まえ、校内研究テーマとの関連や、本単元でできる取り組みがあれば、記述するとよいと思います。学習状況の調査結果を学習に取り組むための手立てとして、指導観に落とし込むこともできるのではないのでしょうか。

例えば、次のような視点で考えてみるとよいと思います。

* * * * *

視点①【調査結果から状況を考える】

令和5年度の調査結果から、特に①日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることが苦手である。②社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことが苦手である。ということがわかりました。「問題の意味は分かるが、何を書いてよいかわからない」など、「自分の考えを持つ」「自分の考えを整理する」ことが、正答率の低さ、無回答率の高さの原因として考えられます。

視点②【長期的なイメージで考える】

この言語活用能力は一朝一夕にしてできるようになるものではありません。正答率の低さに注目しがちですが、自校の生徒たちが、どの段階でつまづいているのか、何に困っているのか等を把握し、その改善のために、普段の授業で何に、どのように取り組んでいく必要があるのか、1年時から継続した手立てを講じることができたらよいと思います。

* * * * *

学調の結果・分析・活用についての参考資料：千葉県教育委員会 HP 掲載の千葉県学力向上通信「COMPASS」、
課題別実践アイデア例など

3 単元の目標

- ～できる。
- ～できる。
- ～しようとする。

目標は資質・能力ごとに示しましょう。

(知識及び技能)

(思考力、判断力、表現力等)

(学びに向かう力、人間性等)

下記のように3つの資質・能力を盛り込んで1文で書く方法もあります。

「例 友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想をまとめるために、野菜の歴史について書かれた英文を読み、読んだことを基に考えたことや感じたことを、英文を引用したり内容に言及したりしながら伝え合うことができる」(中学校、小学校高学年 外国語科)

「例 学級の友達に感謝の気持ちを伝えるカードを作るために、相手に伝わるように工夫しながら、色や形など身の回りの物について、欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。」

(小学校中学年 外国語活動)

参考文献：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

中学校外国語、小学校外国語・外国語活動』 令和2年3月 国立教育政策研究所

小学校中学年 外国語活動
は語尾が「～できる」ではないことに注意！

- ・中学校では、学習指導要領に基づき、各学校で生徒の実態を踏まえて外国語の学習到達目標を具体的な形で示す「CAN-DOリスト」を作成することになっています。この「CAN-DO リスト」が達成されるように年間指導計画（評価計画を含む）を立て、それに基づいて各単元や1時間ごとの授業の指導と評価を行うことが重要です。
- ・目標を設定する際には、5領域(外国語活動は3領域)が分かるようにします。
(例)「～を伝え合うことができる」→ 話すこと【やりとり】

4 単元の評価規準

※単元の目標を実現する学習活動に合わせて作成しましょう。

参考：国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』

また、「外国語活動・外国語科」の単元の評価規準については、「3 単元の目標」に合わせて、5領域のうち、どの領域を評価するのか分かるように明記しましょう。

- ・1単元で評価する領域は1,2領域にしぼり、指導の重点化を図りましょう。
⇒ 年間の評価計画をしっかり立てておく必要があります。
- ・外国語活動・外国語科では、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」には深い関わりがあることから、評価規準の文末を対のような形で示し、両者を一体的に評価することができるとしています。
⇒ 評価規準の表現は文末を変えるだけでもよい。
【例】(思考・判断・表現) 「～している。」
(主体的に学習に取り組む態度) 「～しようとしている。」

(例)

4 単元の評価規準（読むこと、話すこと【やりとり】）

（例1）タイトルに評価する領域を入れる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
読むこと	<知識> ① ～している。 ② <技能> ① ～している。	① ～している。 ②	① ～しようとしている。
話すこと (やりとり)	<知識> <技能>		

「知識・技能」を分けて記述する。

（例2）表に評価する領域を入れる。

5 全体計画

※4で作成した評価規準との整合性が重要です。

4で作成した評価項目（できるようになること）の達成に向けて、授業を計画します。

総括的評価（評定に生かすための評価）を○で、形成的評価（指導者が指導の改善に生かす評価）を●で表します。（考え方：○に向けての●）

※評価項目以外の領域のみの授業内容を行う場合、評価に○●ともに記入がないことも考えられます。その場合、評価項目以外の領域に対しても形成的評価（生徒へのフィードバック、自身の授業の振り返り）は必要です。しかし、指導と評価の一体化から、児童生徒が取り組んだ活動やテストに基づいて評価するので、評価項目以外の領域のみの授業は、評価規準の領域を指導、評価することにつながるよう設計することが大切です。

5 全体計画（11 時間扱い） ●指導者が指導の改善に生かすための評価 ○ 評定に生かすための評価

時	○目標 ・学習内容（学習問題）	評価規準（ ）内は評価の方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	○ ・ ・ ・ ○			

どのような内容を、どのような順序で指導したらよいのか一連の流れを考え構成しましょう。児童生徒の立場に立ったり、反応を予想したりして構成しましょう。特に、思考する時間や活動、話し合いの時間を十分とり、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が実現されるような単元構成を考えましょう。

本時がどのように位置付けられているのかを明確にしましょう。

知①②の①②は「4 単元の評価規準」の①②に対応しています。

6 本時の指導（8／11）

（1）目標

本時の指導目標を明確かつ具体的に書きましょう。

（思考力，判断力，表現力等）

（2）展開

指導観で記述した内容や取り組みと，本時の指導とをリンクさせることが大切です。

過程・時配 (学習形態)	学習活動と内容	○指導上の留意点（UDの視点も含む） ☆評価（方法） ◎個別の支援	資料
見いだす ○分 【全体】	1 ○ 本時の学習活動がどのように流れ，教師はどのような場面でどのような具体的手立てをとるのがわかるように書きましょう。	○ ○ ユニバーサルデザインの視点を含めた指導上の留意点，個別の支援を取り入れて，手立て等を考えましょう。	
自分で 取り組む ○分 【個】	・ 3 ○ ・ 	学習問題・学習課題にあたる場所は，外国語活動／外国語科では「学習目標」または「Goal」になります。文末表現は「～する・しよう」や「～できる（ようになる・なろう）」になります。	